歌謠調臺灣行脚

西川榮一

d r m f s l t d r m f s l t d r m f s l t d r m f s l t d r m f s l t d r m f s l t d r m f s l t d r m f s l t d r m f s l t d

臺東小唄

1
臺東よいとこ海原越えてヨ
ショコ　ヨササノ　サッサノセ
夏はそよ風　袂をはらひ
沖の黒潮見て暮らす
オオサ黒潮見て暮らす

2
臺東よいとこ卑南の山にヨ
ショコ　ヨササノ　サッサノセ
沈む眞紅の夕陽を浴びて
椰子の木蔭にキャンプする
オオサ木蔭にキャンプする

3
臺東よいとこ月夜の晩はヨ
ショコ　ヨササノ　サッサノセ
出たよ出ました水牛の角に
銀のお盆の秋の月
オオサお盆の秋の月

4
臺東よいとこおどりの國よヨ
ショコ　ヨササノ　サッサノセ
粟の祭りの祝の粟酒で
蕃娘おどつて夜が更ける
オオサおどつて夜が更ける

5
臺東よいとこ火燒島は近いヨ
ショコ　ヨササノ　サッサノセ
沖の鷗が夕日にまへば
船頭勇まし舞船
オオサ勇まし舞船

臺東小唄

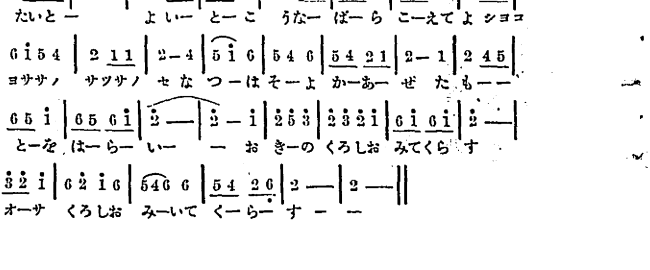
變ロ調 $\frac{2}{4}$

| 0 i 6 i | 2 — | 2 3 2 i | 6 i 2 | 0 4 5 4 | 5 6 2 | i 6 i 6 | 5 1 i |
たいと ー　よい ー　と ー こ　うな ー　ば ー ら　こ ー えて　よ　ショコ

| 6 i 5 4 | 2 1 1 | 2 — 4 | 5 i 6 | 5 4 6 | 5 4 2 1 | 2 — 1 | 2 4 5 |
ヨササノ　サッサノ　セ な　つ ー は　そ ー よ　か ー あ ー　ぜ　た　も ー ー

| 6 5 i | 6 5 6 i | 2 — | 2 — i | 2 5 3 | 2 3 2 i | 6 i 6 i | 2 — |
と ー を　は ー ら ー　い ー　ー　お　き ー の　くろしお　みてくら　す

| 3 2 i | 6 2 i 6 | 5 4 6 6 | 5 4 2 6 | 2 — | 2 — ‖
オ ー サ　くろしお　み ー いて　く ー ら ー　す ー ー



6
豪東よいとこ知本の温泉(おん)はヨ
シヨコ　ヨサヤノ　サッサノセ
山は紫飛沫は飛んで
河鹿鳴きます樂園よ
オオサ鳴きます樂園よ

7
豪東よいとこ一度はおいでヨ
シヨコ　ヨサヤノ　サッサノセ
咲くは文化よ心の花よ
咲いて榮えて八千代まで
オオサ榮えて八千代まで

新港小唄

1
やれうれし
思ひかなうて　港は出來た
ヨイ　ヨイ
唄へおどろよ　こんかぎり
おじやれ新港は　よい港

2
雲を染め
さつと朝日が　三仙臺に
ヨイヨイ
のぼりや大漁　舟が來る

ホ調　新港小唄

| 3 5 3 5 3 5 | 6 6 — 0 | 2 1 2 1 6 5 | 6 6 — 0 |
| 6 6 6 1 6 | 2 2 — 0 | 3 5 3 2 | 2 3 1 6 |
やれうれー　しー　おもーひ　かなうて
| 0 1 3 1 6 3 | 5 6 5 3 | 2 2 — 0 | 2 2 5 0 |
みなとはー　でーきー　たー　ヨイヨイ
| 3 5 6 0 | 0 1 6 1 2 3 2 | 1 2 5 1 | 6 6 — 0 |
うたへー　おどろよ——　こんかぎ　りー
| 3 3 1 1 6 6 | 1 3 3 2 1 2 | 6 5 3 0 3 | 5 6 2 1 6 | 2 2 — 0 ‖
おじやれ　しんーこは——　よいみーなーとー

おじやれ新港は　よい港

3
波しぶき
はまは一ぱい　かじきの山よ
ヨイ　ヨイ
男わざかえ　血がおどる
おじやれ新港は　よい港

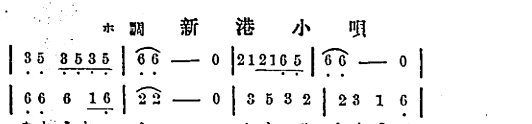
4
夢のよに
よどむ黒潮　お月がぬけりや
ヨイ　ヨイ
幕社(ひら)のおどりが　またはずむ
おじやれ新港は　よい港

5
何じやいな
海老かあわびか　大鯛小鯛
ヨイ　ヨイ
主のさかなは　たやしやせぬ
おじやれ新港は　よい港

秀姑巒溪の歌

…岡本新市作歌作曲…

1
秀姑巒溪矢よりも早く



海岸山脈打貫きて
太平洋の波間にくぐる

2 清き流れは新高山の
峯の泉を谷間にうけて
末の早瀬に真珠を散らす

3 舟子が棹さす下りの舟は
かはす岩角岩村しぶき
くぐる早業乗り切るかひな

4 動く景色にちらりと見たは
崖にしをらし白百合芙蓉
仰ぐ峯には海さへかゝる

5 木の間がくれにましらが渡る
瀬の川原に河鹿も鳴けば
淵を亂して銀魚が躍る

6 月の奇密社に籌が見えて
冰ふ蕃歌は谷間にひゞき
並ぶ檳榔の數さへ讃める

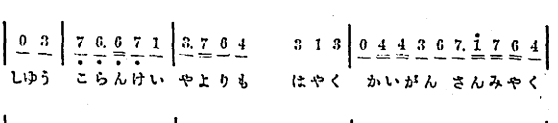
秀姑巒溪の歌

0 3	7 6. 6 7 1	3. 7 6 4　　3 1 3	0 4 4 3 6 7. 1̇ 7 6 4
しゆう	こらんけい	やよりも　はやく	かいがん　さんみやく

3. 6 4 3 1 7 1 7 6	0 6 4 3 6· 1̇ 7 6 4	3. 4 3 4 6 7 6 1̇ 7
うちつーらぬきて	たいへいやうーの	なみまにーくぐーる

7 深城落しの難所を越えて
下る川筋　白石原に
奇岩怪石群れ立つ眺め

8 峯のとぎれた山門出れば
明けた思ひの青空高く
舟は河口の鏡をすべる



9 島のあなたの高潮聞いて
漁る竹筏　櫂の音絶えて
納々蕃社に千鳥が通ふ

玉里踊

大正十五年三月臺東線全通式の際玉里有志作になるもの、ずい分古い。節は安來節とある。

1 來やれ來なませ　家族と共に
玉里よいとこ　住みよい所
青い草樹が　野山に茂り
四季を通じて　小禽が唄ふ

2 來やれ來なませ　家族と共に

玉里附近は　名所が多い
一に温泉　二つに護岸
三に三笠山　寝た姿

3
來やれ來なませ　家族と共に
玉里東部の　眞ん中所
横斷道路に　湯布が懸り
雪も見えます　新高に
4
來やれ來なませ　家族と共に
玉里よいとこ　水よい所
鯉や鰻は　夕餉のお菜
娘　十六　肌よく育つ

馬太鞍の歌

あゝ玉杯の節です。

1
昔しやこわちん草藪が
變れば變る　馬太鞍の
驛に集る　人多し
後に高き　鹽糖は
東部で一の　大工場
出來る品質　日本一

2
汽車の窓より眺むれば
左に高き　馬太鞍社
はるか向ふに大巴塱社
蕃乙女の小唄ほがらかに
廣き田圃に　情深く
出來る米穀いと味まし

3
東部中心馬太鞍驛
海岸地方に鐵道ひらき
汽車走らすも愉快なり
砂糖米穀　東部一
蕃社のダンスも東部一
將來望みも　東部一

花蓮港音頭

…岡本新市作曲…

1
燃ゆるクロトン私の胸よ
ヤツトサノ・セ
晴れて花崗　晴れて花崗二人づれ
内地
内地なつかし花蓮港　サツトセ

2
汀に浮んだ迎の船に

花蓮港音頭

|3.1|2 3.1 2 —|0.3 5.3 2.3 1.2|3.5 3.5 6.1 6.1|
もゆるクロトン　わたしの　むねよ

|2.1 6.1 2|2 1 2 1 3 —|3 1 2 1 6 5|5 3 5 1 6 2 1 6|
ヤツトサノセ——　はれーて——はなーをか——　はれてはなをか

|5 6 3 1 2 3 2 0|0 6 5 3 2 1 2|0 3 5 3 5 1 5|
ふたり　づーれ　ないーちーー　ないちな　つー

|6.1 2 1 3|2 1 6 1 2 3 1|2 3.1 2 —||
かーし　かれ　んーこーう　サツトセ——

ヤットサノ　セ
つきぬ情の　つきぬ情の南濱
築港
築港戀しや投げテープ　サットセ

3
ゴルフリンクは若草萠えて
ヤットサノ　セ
ボール飛んだよ　ボール飛んだよ青空に
休む
休むハウスの夫婦連れ　サットセ

4
誇るタロコの景色はまゝよ
ヤットサノ　セ
埋る黄金は　埋る黄金は野に山に
四十
四十五億が地に唸る　サットセ

5
踊る豊閑月見の祭り
ヤットサノ　セ
大和小唄に　大和小唄に赤襷
花の
花の煙草に蝶も舞ふ　サットセ

6
甘蔗林に煙があがる
ヤットサノ　セ
あれは工場か　あれは工場か來る汽車か
みのる
みのる砂糖は　百萬俵　サットセ

7
雲に隠れた檜の深山
ヤットサノ　セ
うごくケーブル　うごくケーブル空しげく
つんだ
つんだ丸太は滿洲に　サットセ

花蓮港小唄

…岡本新市作曲…

1
三十一里の臨海道路
バスの眺めは世界に稀よ
さあさ行きましよあのタロコ峽
砂金埋まる寶の庫よ
新興花蓮港有望ね
新興花蓮港有望ね

2
ゴルフリンクの綠の丘や

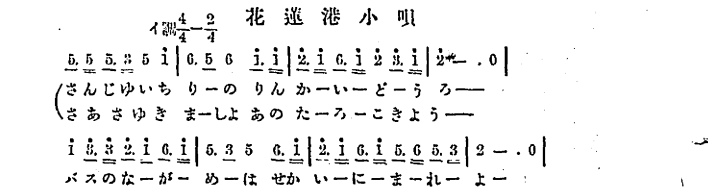
花蓮港小唄

イ調 $\frac{4}{4}$—$\frac{2}{4}$

5. 5 5. 3 5 1̇ | 6. 5 6 1̇. 1̇ | 2̇. 1̇ 6. 1̇ 2̇ 3̇. 1̇ | 2̇ — . 0 |
さんじゆいち　りーの　りん　かーいーどーう　ろ——
さあさゆき　まーしよ　あの　たーろーこきよう——

1̇ 3̇. 3̇ 2̇. 1̇ 6. 1̇ | 5. 3 5 6. 1̇ | 2̇. 1̇ 6. 1̇ 5. 6 5. 3 | 2 — . 0 |
バスのなーがー　めーは　せか　いーにーまーれー　よー
さきんうーづー　まーる　たか　らーのーくーらー　よー

5. 5 5. 3 | 5. 1̇ 6. 5 | 6 1̇ | 2̇ 0 | 5 3̇. 3̇ | 2̇. 1 6. 5 | 6 1̇ | 2̇ — ||
しんこう　かれんこ　ゆうぼうね　しんこう　かれんこ　ゆうぼうね



築港新町見下しながら
飛んで行かうか臺北内地
こゝは名高いカレイワン飛行場
（繰返略）

3 吉野なつかし姉さんかぶり
レッドジャスミン煙草の華よ
月見まつりの荳蘭蕃社
踊る歌聲　田毎にひゞく
（同　）

4 どんと乘り出す太平洋に
檜積んだか砂糖の船か
空はあかねの夕燒小燒
遠く埠頭の燈影がゆれる
（同　）

臺灣鐵道初印象

北陸にて　T　生

二月一日富士丸にて渡臺後、約一週間に亘り、南は屏東方面迄視察することが出來ましたが、此の旅行で得ました印象を述べさしていたゞきます。

突然の渡臺なものですから、豫備知識を仕入れる暇も無く、「葦の髓より天井を覗く」てな類になるかも知れませんが、失禮の段は平に御免下さい。

◇　基隆の巻

日本一の雨量の多い土地と船中で聞かされて參りましたが、なるほど降つて居るわい。出迎の人々は、雨傘、日傘、色とりどりにさして居るが、半身は濡れて御座る。臺灣は金紗の御召物はよほど内地より格安と見える。出迎の岸壁倉庫上に雨よけの庇なりと造つていたゞけましたら、有難き仕合と思ふは、私一人ばかりでもあるまい。荷役クレーンの關係上むづかしいかも知れませんが。岸壁から驛までの名物の長廊下はよくも造つたり、聞けば二、三年後には基隆驛の改築もあるとのこと其の際は青森や釜山の如く、船から汽車にとしていたゞきたいものです。入港の際郵便局の出張所のやうな所で電報を取扱つてくれて居りましたが、出帆のときは取扱つて呉れませんやうでした。是非入港の時のやうに取扱つて貰ひたいものです。又郵便函はいつも締切りになつて居りますが、出帆間際に締切り下さいましたなら、便利なことゝ思ひます。ついでゝすが基隆驛の電報受付所は、屋根は申しわけばかりで、下は雨のためヂャブヂャブです。

岸壁の賣店の方々や、驛長さん及驛員さん方の御親切、御丁寧なことには、感心、恐縮致しました。旅に出てうれしいものは、先づ何よりも人の溫情ですからな。

私の認識不足で、臺灣の汽車は内地の私鐵の如く、未だマッチ箱が走つて居るものと考へて居りましたが、聞くと見るとは大違ひ、鋼製客車にC五五の立派な機關車、それに線路は複線ときて居りますから、内地からきた田舍人はびつくりします。私のびつくりの一つ。